



放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー育成プログラム®

放射線災害による
人と社会と環境の破綻からの復興を担う
グローバル人材育成

お問い合わせ

広島大学フェニックスリーダー育成プログラム事務局

〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 教育学研究科B棟810号 TEL: 082-424-4689

E-mail: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp Web: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>

 広島大学

平成23年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」採択 複合領域型 — 横断的テーマ —



広島大学から始まる 世界基準

巻頭インタビュー

広島大学 学長
越智 光夫

広島大学 大学院医歯薬保健学研究院
統合健康科学部門医学分野 整形外科学
医学博士

世界に通用する 学位プログラムを目指して

Q1: まずはプログラム誕生をめぐる背景と広島大学の特色について教えてください。

学長: 広島大学は「自由で平和な一つの大学」という建学の精神の下、日本有数の総合研究大学として発展を遂げてきた結果、中四国で唯一、平成26年度のスーパーグローバル大学創成支援のタイプA(トップ型)に採択されました。今後10年以内に教育力・研究力を両輪とした大学改革を推進しながら、世界トップ100の大学を目指しています。さらに広島大学は、「文部科学省博士課程教育リーディングプログラム」の採択も得ています。これは、大学院教育の抜本的改革を支援し、世界トップレベルの学位プログラムの構築・展開を目指すものです。採択された「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」および「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」では、科学技術が目覚ましく進歩する一方で、現代社会が直面する多くの課題に自ら立ち向かう「グローバルリーダー」の育成に全力で取り組んでいます。

ヒロシマの遺産を 未来に生かす

Q2: フェニックスリーダー育成プログラムを設置した目的・意義について教えてください。

学長: 原子爆弾によって想像を絶する被害を受けた広島。その広島の復興を支えてきた広島大学だからこそできる人材育成が本プログラムだと考えています。ご存知のとおり、広島大学には原爆に関連した膨大な知識が集積されています。原爆により被害を受けた方々の治療はもちろん、黒い雨の研究や爆心地周辺から郊外における放射線レベルの調査、そして原爆被害による人間の行動・心理面の研究や『原爆の子』といった被爆体験の記録など、本学には被爆地ヒロシマならではの貴重な資料が蓄積されています。そうした知の遺産を活用しながら、「放射線」が与える恩恵とリスク、例えば医療被ばくや原発事故、核テロなど、現代社会を取り巻く多様なリスクに正しく向き合い、安寧な社会へと導くリーダー的人材は、これからの社会に不可欠な存在です。

「放射線災害復興学」という 新分野の確立

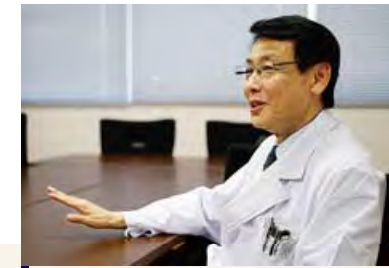
Q3: プログラムによって育成されるリーダー像とその役割について教えてください。

学長: 実際に災害が発生すれば、医学・物理学・環境学・心理学などそれぞれの分野において、専門家が必要になります。しかし、放射線災害が複合災害である以上、一つの分野に特化した専門家だけでは、真の復興をリードすることはできません。このプログラムでは、世界に先駆けて「放射線災害復興学」を確立しました。深い専門性と学際力を兼ね備えるとともに合意形成に導くマネジメント力を発揮して、放射線災害からの復興を世界的にリードする国際的人材「フェニックスリーダー」を育成します。非常に充実した内容であるがゆえに、忙しさに直面することも多々あると思いますが、やりがいのあるプログラムです。世界的な活躍を目指す、情熱を持った志願者を待っています。

プログラム関係者に聞く



プログラム責任者
神谷 研二
広島大学 副学長(復興支援・被ばく医療担当)
原爆放射線医学研究所 教授
福島県立医科大学 副学長
医学博士



プログラムコーディネーター
小林 正夫
広島大学 大学院医歯薬保健学研究院
統合健康科学部門 小児科学 教授
広島大学病院 副病院長
医学博士

国際舞台で放射線災害復興の要となる人材を

放射線災害復興学は 希望の宝庫

Q: フェニックスリーダー育成プログラムの魅力と特徴を教えてください。

神谷: 平成24年10月にスタートした「フェニックスリーダー育成プログラム」は外部評価委員会の皆さまから「このプログラムは希望の宝庫だ」と高い評価を得ました。さらにうれしいことに、本プログラムに参加している学生が、実にイキイキとして、輝いている。高邁な志を持って学業に専念している学生たちの姿に、我々自身も大変勇気付けられているところがありますね。

小林: プログラムの中身をご覧いただくとわかるのですが、インターンシップやフィールドワーク、その他にもチェルノブイリ原発事故により大きな被害を受けたベラルーシ共和国への現地視察などを通して、博士論文研究の展開に示唆を得る機会を設けるなど、非常に“現場”を重視した実践力を養う教育に主

眼を置いています。また、専門科目をほぼ修了する時期に全学生が受講する「放射線災害復興学」では、学生がこのプログラムで修得した知識やスキルを結集し、個々に課題を設定して学術知見を駆使した報告書を執筆します。これは博士課程で身につけた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるもので、本プログラムの特徴の一つになっています。そしてこのプログラムをやった時、みなさんは大きな自信をもって社会にはばたくことができると確信しています。

学びは実践的で 具体的だから夢が カタチになる

Q: 学生たちがたどるキャリアパスについてはどのような手応えを感じていますか?

神谷: 主体的に学んだ学生が修了後にそれぞれの望む場で能力を発揮して社会で活躍していく。こうした望ましい姿の教育を実現したいと思っています。

小林: 産業界や国際機関等との連携によるキャリアパスセミナー、各学生の研究活動内容にマッチさせて実施するフィールドワークや、オークリッジ科学研究所(米国)での放射線災害医療、除染、環境放射線測定に関する知識・手技を修得するためのトレーニング研修、IAEA(国際原子力機関)でのインターンシップなど常に現場と密接な関係を持って教育を進めています。また、国内外での豊富な実践教育を通じて必要な現場力・国際感覚・俯瞰力を修得できる環境がここにはあります。

神谷: このプログラムで得た強みを活かし、自分の価値を磨くことが大事ですね。そして、今こそ広島大学が育んできた挑戦の志を大きく開花させ、具体的な形に結実させる時であろうと思います。将来は、日本国内はもとより、国際舞台で放射線災害復興の要となり、実際に現地での役に立つ人材を輩出していきたいと考えています。

フェニックスリーダー育成プログラム®とは

プログラムの目的

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム®」は、放射線災害復興専門家育成の必要性和、原爆からの復興を支えてきた広島大学の実績と経験を背景に、放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力、さらに国際的に活躍できる能力を有したグローバルリーダーを育成することを目的としています。

コースの紹介

「放射線災害医療コース」「放射能環境保全コース」「放射能社会復興コース」から一つのコースを選択し、各自の専門分野の深化とともに、他のコースの授業科目も履修し分野横断的に修学します。

放射線災害医療コース (4年一貫制)

放射線災害から 生命を護る人材

身につける能力

- 被ばくの影響評価とその診断・治療ができる能力
- 放射線が遺伝子に及ぼす影響を理解し、発がんを引き起こすリスク評価ができる能力
- 放射能汚染ストレス下におけるメンタルケアを行うことができる能力



内部被ばく検査実習の様子

放射能環境保全コース (5年一貫制)

放射能から 環境を護る人材

身につける能力

- 核分裂反応や反応生成物の化学的性質を分析することができる能力
- 環境中・飲食物中の放射性物質汚染の測定・評価・解析を行うことができる能力
- 放射能の除染や放射性廃棄物の適切な処理・保管を行うことができる能力



環境放射線の測定実習

放射能社会復興コース (5年一貫制)

放射能から 人と社会を護る人材

身につける能力

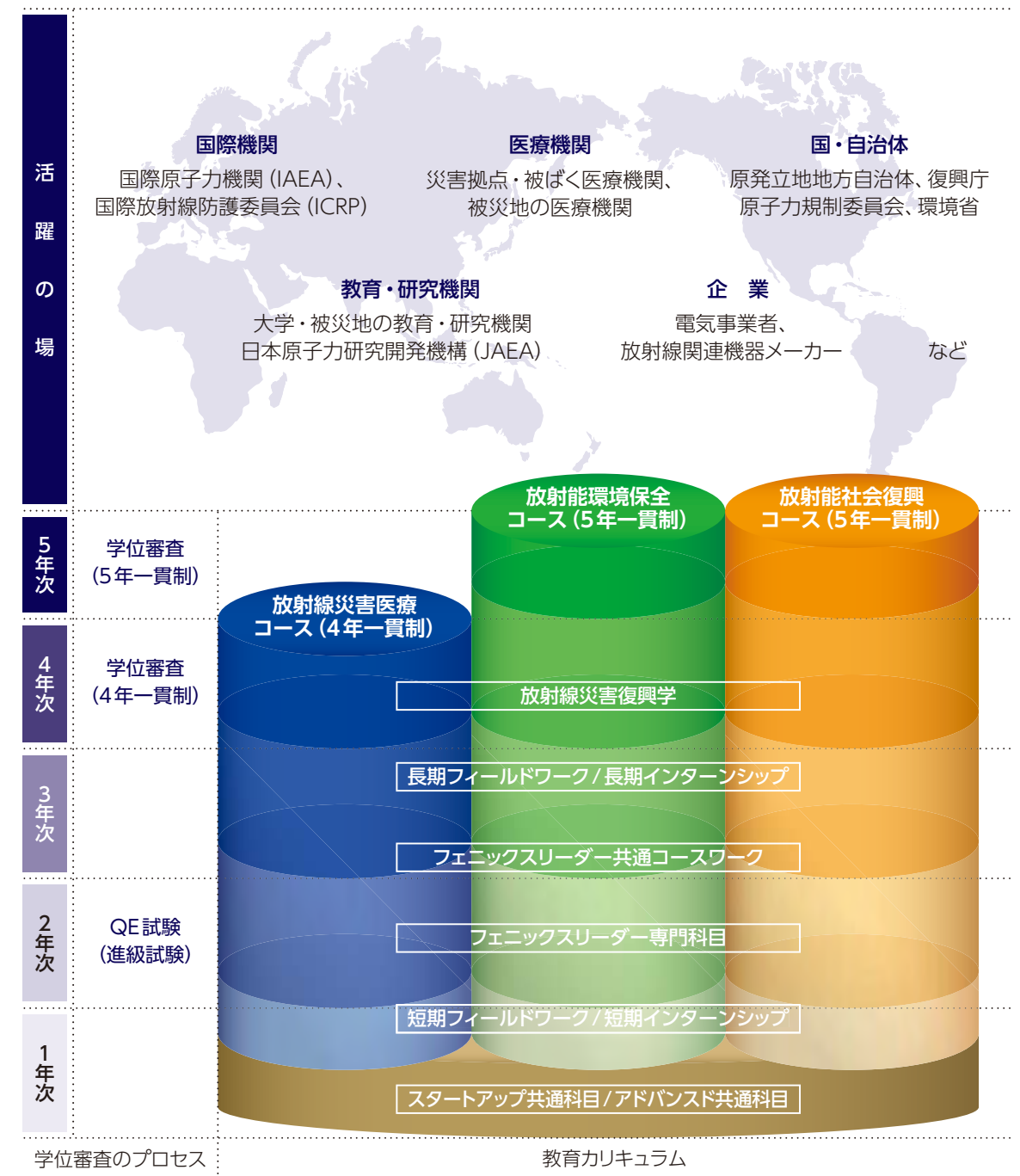
- 放射線災害・風評被害がもたらす社会不安を軽減することができる能力
- 被災住民のコミュニティ再構築を支援することができる能力
- 放射能汚染ストレス下における健全な子育て環境の支援を行うことができる能力



被災地仮設住宅での聞き取り調査

カリキュラムの概要

本プログラムでは、①分野を超えた知識基盤である「学際力」、②グローバルに対応できる「国際力」、③複雑に錯綜する現場において合意形成に導く「マネジメント力」の3つのスキルを伸ばします。また、語学研修や分野横断的の共通コースワーク、国内外でのフィールドワークやインターンシップ等を通じて実践力を身につけます。



プログラム履修生

Voice



放射線災害医療コース

★ Ho Mihn Van

Improving One's Skills to Become a Global Citizen

Global education involves mutually beneficial learning that allows people to develop a new and more nuanced understanding of challenging issues facing the world, and the endless opportunities the world offers. Global education also includes recognizing the importance of multiple perspectives and multiple domains of knowledge that lead to a broad understanding of the world around us, as well as a well-informed foundation for making decisions. In our day and age a global life represents the necessary coordination of people all over the world. The Phoenix Leader Education Program fulfills a personal goal of gaining knowledge drawn from across the world. Furthermore, the program's global education develops the skills and personal attitudes that empower graduates to take action in their respective areas of expertise. It motivates graduates to not only take responsibility for their own lives, but more importantly for the world in which they live, and ultimately become inspiring leaders and active global citizens.

研究活動と分野横断的な学習環境の日々

私はこのプログラムに入学する前、マレーシア熱帯雨林の森林伐採が陸上の炭素循環に与える影響を研究していました。研究を進めるうちに、社会と研究者の関係はどうあるべきかに興味を持ち始めました。以前は熱帯雨林の減少、現在は原子力災害からの復興という一見かけ離れたテーマを扱っているように思えますが、科学だけでは解決できない社会問題ととらえると、この二つはかけ離れたものではないと考えています。このプログラムは学生に多くのチャンスを与えてくれ、忙しく充実した生活を送っています。これからもチャンスを最大限生かせるよう、日々努力していきたいと思います。



放射能環境保全コース

● 高田 モモ



放射能社会復興コース

🇺🇸 Kabir Russell Sarwar

放射線災害における母子の避難者にもっと焦点を

災害から社会を復興するには、次世代に文化を継承することが必要であり、それが可能なのは子ども達です。それゆえに私は福島事故から避難している子ども達と母親に焦点を当てようと思いました。ツイッターやブログのコメント等も含めて、被災した母子のストレス等の状況を心理学や言語学の知識・技術を駆使して明らかにします。こうした分析の積み重ねは、必ずや放射線災害の被災者ケアの政策に貢献することができると思っています。

入学者選抜の概要

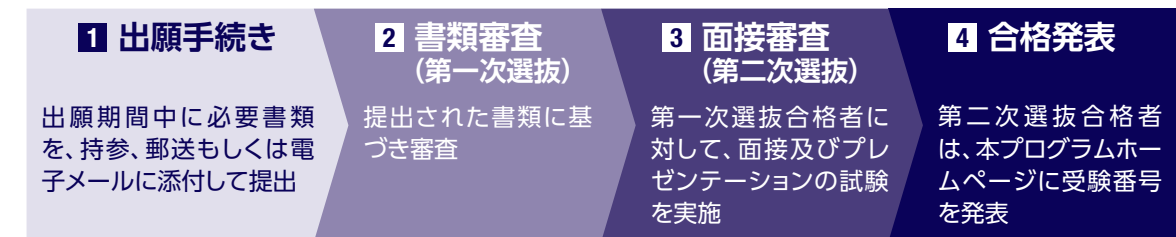
求める人材像

- (1) 横断的知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- (2) 人の痛みがわかり、災害復興に貢献したいと強く願う人
- (3) リーダーとなって、地域・国際社会で活躍したい人
- (4) 意欲、行動力、責任力、人間性に優れた人

募集人員

放射線災害医療コース (4年一貫制)	各コース 若干名
放射能環境保全コース (5年一貫制)	
放射能社会復興コース (5年一貫制)	

選抜プロセス



詳細は、学生募集要項ならびに本プログラムのホームページをご確認ください。

URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/admission/>



学生支援

経済的支援

本学の定めた取扱いに則り、以下の経費を支給します。なお、金額については今後変更する場合があります。

- 給付型「奨励金」
(月額18万円～20万円)
- 研究内容に応じた「研究活動支援金」
(半期50万円を上限)
- 海外渡航費など修学上必要となる経費

キャリアパス支援

各種セミナーやインターンシップ、フィールドワーク、国内外での研修などに多くの企業や研究機関などが参画するために、国内外の企業や研究機関のグローバルリーダーとの接触の機会が得られます。そのため、企業、研究機関とのより深い交流に基づく就職の機会が拡大し、多様なキャリアパスを選択することが可能となります。